



朝陽映島（1939年横山大観）—山種美術館蔵—



No.11（平成18年）
社会福祉法人 鶴風会
東京小児療育病院
みどり愛育園
西多摩療育支援センター
後援会
—連絡先—
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042(561)2521(代表) 〒208-0011
東京小児療育病院内
Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のため誠実に
積極的に取り組み障害児者と
その家族を支援します

1頁	新しい年を迎えて
2頁	美幌療育病院見学記
3頁	西多摩センターだより・後編
4頁	鈴木康之先生の糸賀賞受賞・日本女医会より御寄附
5頁	亡き芳博に感謝・読売療育敢闘賞
6頁	体験ボランティア・医学生実習記
7頁	藤沢周平の世界
8頁	チャリティーバザー報告
11頁	後援会だより
12頁	御寄付者名簿

新しい年、二〇〇六年を迎えて

——この瞬間に最善を尽くそう——

理事長 五島瑳智子

いつも、どこでも、たとえ自分が望まなくても、置かれた状況のなかで、その時の自分の最善を尽くそうとしてきた。それは今も変わらない。

昭和の時代に生きてきた世代には、現在のように意志と努力で自分の生き方を選べる環境は皆無だった。まして力のない者、人並みのことができない者は、家族の者にさえ肩身を狭くして生きなければならなかった。

東邦大学の前身である帝国女子医専の卒業生有志が、障害児の療育施設の開設を志したのは、敗戦後十数年を経た昭和三十六年頃からである。紆余曲折を経て昭和三十九年（一九六四年）によりやく社会福祉法人鶴風会が開設されたが、その運営は当初から苦難の連続であった。当時の社会の偏見から障害児を隠しておきたい風潮は色濃く、家族に診断と療育

を受けさせることの大切さを、縷々説明して納得してもらうために家庭を訪問することも度々だったし、運営面では資金不足に常に悩まされ続けた。職員の給与が満足に支給できない時もあった。

日本経済が上昇してくるにつれ、行政も、社会も理解の目を向けてくれるようになったが、経済状況が悪くなれば、直ちにマイナスの影響を受けた。近年経済面の低迷によるしわ寄せが徐々に福祉事業に向かっていると思う。高齢者よりもはるかに少数の障害者は軽視され易い位置にある。

敗戦六十年 — 還暦の年に —

二〇〇五年に太平洋戦争が敗戦に終わってから六十年日本は還暦を迎えた。去年は各地で戦争を記憶するための行事が行われたが、その中で印象深かったのは、

昭和五十年（一九七五年）に私共の施設を訪れて下さった天皇、皇后両陛下（當時は皇太子、皇太子妃）が、昭和一九年に玉砕したサイパン島に慰霊の訪問を果たされたことである。米軍に追いつめられて、断崖から多くの島民が身を投じたバンザイクリフに立たれ、長い間海に向かって黙祷をされた。お顔はテレビ画面には映らなかつたが、海風に吹かれながら岬の先端に立たれたその後姿から、深い鎮魂の思いが伝わってきた。

学徒出陣で東大在学中に海軍に入隊させられた私の徒兄は、まもなく硫黄島で戦死した。遺族に届けられた一人息子の骨箱には真新しい軍帽だけが入っていた。遺骨は今も返っていない。伯母は終生九十歳で亡くなるまで生前の息子の部屋をそのままに残していた。三百万以上の命を奪った太平洋戦争。その頃、国民は何も知らされていなかったが今にして思えば昭和二十年八月十五日を待つまでもなく、七月二十六日のポツダム宣言を受諾していれば、広島、長崎への原爆投下もなくソビエトの参戦もなかつた筈である。この二十日間を空費したことによって、多くの国民が被爆者となり、またシベリアに六十万人が抑留され数万人が生命を失った。後遺症は今も続いている。

「歴史に若しも」がないことはわかつてはいても、せめてサイパン島が玉砕した昭和十九年に戦争を終結させていれば、鹿児島県の知覧基地から紅顔の少年兵が、ブリキ同然の特攻機に爆弾と片道燃料だ

け積んで出撃し、海中の藻屑となることもなかつた。為政者の判断の誤りが多くの国民の生命を奪い、不幸にした。その責任は誰にあるのだろうか。知覧の博物館で、残された多くの遺書や遺品を見る度に、理不尽ともいえる状況の中で愛する祖国や家族のために最善を尽くそうとした若者たちの一途な思いが胸に迫り、涙を止めることができな。あの頃の若者は自分の夢や意志を持つことを許されず、それでも必死で生き、死ななければならなかつた。

新しい年の生きかた

平成十八年の今、日本では必死にならなくても、最善を尽くさなくても生きていける。生きるのに必死だった昭和の時代とは比べることができないほど世の中は豊かである。できるだけ楽をして、得をすることだけに手を出し、他人のために働くことなど格好悪いと思う人達もいる。「すべての瞬間に最善を尽くす」などばからしいと思う人々が増えていて、しかし私はそういう生き方に組するつもりは毛頭ない。全力を尽くせばたとえ失敗しても自分を許せるし他人を羨むこともない。また、その時最善を尽くしたつもりでも、すぐ次の日、あるいはもつとあとになつてからも、今ならあの時よりよくできたのにとと思うことが沢山ある。それは人間が進歩し、成熟するのに終わりはないというこの証であり、そこに人間として生きる価値があると信じているからである。

美幌療育病院の見学記

西多摩療育支援センター
センター長 鶴岡 広

今年の夏も大変暑かつた。そんな中、暑さも残る八月下旬に総括施設長の鈴木先生が外向されている北海道美幌療育病院の見学に行かせて頂いた。三十度を越す猛暑の羽田を発ち着いた女満別空港は二十度以下。改めて日本の南北の長さを実感。空港より車で約二十分、美幌町の丘の上にその施設はあつた。

美幌療育病院は、社会福祉法人北海道療育園が平成十五年、国立療養所美幌病院の移譲を受け開設された病院で、療養病床（一般）・定員三十名、重症障害児（者）病床・定員一〇名で、同一敷地内に洗濯業務と清掃作業を行う知的障害者通所授産施設ワークセンターびぼろ（定員二十名）がある。国立療養所よりの移譲であり、困難はあるが、病院と授産施設が連携するなど運営に種々の工夫を凝らし重症障害児（者）と地域医療の担い手として頑張っているとのこと。スタッフの皆様の元氣な挨拶、利用者の笑顔にわたしたし勇気を貰つた。

今頃は、北海道は雪の中だろう。遠い北国で障害児（者）に関わる仕事を力を書している仲間がいる。わたし達もガンバらねば、という思いを強くしつつ、晩夏的美幌を後にした。



北海道美幌療育病院前景

西多摩療育支援センターだより・後編

外来部門

西多摩療育支援センターは開設より一年半が過ぎようとしています。今回は、有床療養所『上代継診療所』について少し詳しくお伝えいたします。

外来の標榜科目は小児科、内科、精神科、整形外科、リハ科、放射線科、歯科で、主な対象疾患としては、発達障害（自閉症など）、知的障害、染色体異常、脳性麻痺、重症心身障害、中途障害による身体障害、てんかんなどです。そのほか、一般小児疾患、内科や精神症状の初期対応、整形外科的疾患も診療しております。特徴としては、発達障害の割合が他界こと、近隣の施設の方や、青年期、成人期の方の利用が比較的多いことなどがあげられます。ご家族や、地域の一般の方も利用されています。

歯科は障害児者を対象としていません。全身麻痺での治療は行っておりませんが、不安や混乱、苦痛を軽減するために、個々の状況に合わせた支援方法を工夫しています。

現在、常勤医三、東京小児療育病院からの非常勤医四、非常勤歯科医三、看護師二、歯科衛生士一、クラーク一、医事二名の体制で診療を行っています。受診者数は一日約九十〜百名で、月に約五十〜八十名の新規の方の受診があります。

検査部門は兼務一名、非常勤三名体制で、毎日一名が勤務しています。各種検査のほかに、脳波、心電図、呼吸機能、血液ガス、二十四時間経皮酸素飽和度、レントゲン、誤嚥（VF）、聴力などの検査を実施することができます。また看護師を中心に、採血、脳波検査などの際に、できる限り不安や混乱を軽減し見通しがもてるように、個々の方に合わせて練習の機会を設けたり、手順を示したりといった支援方法を工夫しています。

外来の処方方は、基本的に院外処方としており、兼務の薬剤師一名が、管理的な業務を中心に週一回、勤務しています。青年期、成人期の知的障害の肥満、生活習慣病への栄養指導、重症心身障害児者の経管栄養や栄養状態の評価などは、栄養士が行っています。

コーディネーターは、一名ですが、さまざまな相談、短期入所や新規にご利用になる方の窓口、地域療育等支援事業、ボランティア、見学など、センター内外の調整役として、重要な業務を担っています。

訓練部門

理学療法・作業療法部門は、西多摩療育支援センターの開設と同時に理学療法士五名、作業療法士五名でスタートしました。

外来でのセラピーを中心に、あきる野学園養護学校や、併設する療護施設「楽」への派遣、近隣の作業所や授産施設、通園施設など地域の福祉施設にも必要に応じリハなどを行っています。

上代継診療所の外来では、乳児期の早期リハから、成人の方へのリハといった幅広い年齢層の方を対象にし、また人工呼吸器が必要なお子さんから、歩行が可能など、障害の幅も様々です。

作業療法の対象は、身体障害者のみでなく、知的及び発達障害他の割合も多く、最近の新患の傾向としては、広汎性発達障害児の割合が増えてきています。

言語・心理部門は、言語聴覚士三名、心理一名の体制で行っています。言語は外来の個別指導を中心に、聴力検査や母親を対象とした勉強会にも携わっています。

心理では、個別指導、検査などに加え、両親の支援にも力を入れています。

施設外では保育園や幼稚園、小学校、福祉施設等への訪問による支援、あきる野市の発達相談（心理）、日野市の児童通園施設への支援（心理）のほか、地域の研修会の講師なども引き受けております。

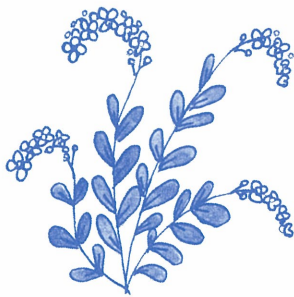
病棟部門

ベッド数十床の小さな病棟です。「笑顔の絶えない温かい病棟」を目指しています。

十二床のベッドのうち、十床は短期入所用です。医療入院枠も二床ありますが、医師数の関係上、当直医師を置けないことから重症者は東京小児療育病院や周辺医療機関にお願いしている原状です。医療入院の内容は発熱・嘔吐・痙攣重積・脱水などの他、緊急保護的な対応が三件あります。

当センター設立後、成人利用者の中には、平日は地域のデイサービスを利用し、週末は短期入所を利用して御家族との関係が維持できるように成った方おられます。

今年度は「医療をベースにしつつも、入所生活をリラククスした、楽しいものにする」事を目標に、療育の活動時間を設けました。そのため、看護師だけだったチームに療育スタッフを加え、入所中の生活の充実を図りたいと検討を重ねている所です。



鈴木康之先生の糸賀一雄賞受賞記念式典に参加して

コーディネーター

相馬

潔

滋賀県大津市の琵琶湖を臨む県民交流室の大ホールにて行われた、糸賀一雄賞授賞式の鈴木先生受賞の記事を書く役目をもって出席、記念撮影させていただきました。カメラにはまったくといって自信がないので、少し腕の立つ同伴者を伴い万全を期して、前日から会場入りを、果しました。

当日、地元のテレビ局BBCカメラが据え付けられた会場に、鈴木先生と一緒に受賞を受けられるカンボジアのための二ヶ国語同時通訳者が入る箱と、聴力障害をお持ちの参加者のためのOHPを利用した同時通訳スタッフ四名とパソコンが、手話による同時通訳二名がスタンバイ。

お疲れの様子鈴木先生も授賞式で、近江学園の利用者さんから花束を受け取ったときだけは、笑顔で一緒に記念撮影に応じておられました。第二部のワークショップの講演後にびわこ学園の前園長先生から祝福の言葉として「糸賀先生は新任研修の最中に倒れられその生涯を絶たれ、表向きには心臓発作とされていましたが、実は過労死でした。」と衝撃的なお話をされました。制度が何も無い中で、制度を作り上げて子どもたちの命と生活を守る姿勢が鈴木先生と重なって、くれぐれも同じようになってほしくない



花束を受けられる鈴木先生一子供達と共に一

との警告と感じました。社会福祉制度が大きく変わる昨今、厳しいことばかりが目に入ってくる現実、鈴木先生から「敢えてこの期により良いものを行う転機」と最後に締めくくられた事が印象に残った講演でした。写真の出来ばえは、当日の写真は、写真集として理事長室にありますのでご覧下さい。

糸賀一雄賞の由来と授賞式当日の記念講演の内容については、「はぐくむ」別冊として後日発刊の予定です。

日本女医会からの御寄付

社団法人日本女医会（東京都支部連合会中山年子会長）より平成十七年十一月十二日にホテルニューオータニ本館十六階「雲居の間」に於いて開催された総会で福祉事業の一端として本年も十萬円の御寄付を賜りました。長年のご支援に心から感謝申し上げます。

日本の女医会千葉支部のご来訪

日本女医会千葉支部の秋葉則子先生が十名の先生方と共に千葉県からバスで本施設をご来訪下さいました。

大切な日曜日（十一月二十七日）ですのに、長岡先生から当施設の説明をお聴き下さり、熱心にメモをとられ、その後、秋元看護部長が施設をご案内いたしました。そこでも午後一時過ぎまでいろいろご質問いただきました。

後日、秋葉支部長先生から本施設へのご寄付がありました。



日本女医会千葉支部の皆様一集合写真一



日本女医会千葉支部の皆様一説明風景一

芳博―超重症児だった息子―に感謝

大塚孝司・淳子

本年（二〇〇五年）六月三十日、西二病棟でお世話になっていた私どもの息子（芳博）が旅立ちました。二十一歳四ヶ月でした。人工呼吸器をつけた超重症児の芳博を十六年間もの長い期間お世話いただき、職員の皆様には大変感謝いたします。

芳博は筋疾患の障害で出生直後から人工呼吸器を必要とし、当初は六ヶ月の命と宣告されていきました。しかし命の力とは偉大なもので、幾度となく危機を乗り越え障害はあっても年相応に成長して行き、好奇心も旺盛でやんちゃな事もたくさんしていました。しかし八歳になった時の心停止のダメージが多く、一命は取り留めたもののそれまでは自分で動かせていた手足の機能は全く失われ、こちらからの呼びかけに対し、まぶたや口元にわずかに反応が見られるようになったのが半年以上経過してからだったと思います。その後も身体的機能の回復はありませんでしたが、身の回りで起こっている様々な事は十分理解しているように感じました。

人工呼吸器を付けた小児が、初めて在宅生活を開始してから十五年ほどの歴史があります。芳博の場合は、在宅生活を始めようとそれまでいた病院を退院したものの、親の力不足で東京小児・みどり愛育園のお世話になることになりました。

結果として、亡くなるまで施設の皆様、

養護学校の教職員の皆様など大勢の方々に関わっていただき、様々な取り組みや修学旅行など大きな行事にはほとんど参加することが出来、本人としては充実した生涯だったのではと思っています。芳博から見ればずばりな親で、「もう少し面倒見るよ!」と言いたかったのではと思います。亡くしてからでは遅いのですが、親としてやり残したことも多々あり反省しております。

近年、高度先端医療技術の発達により、出生前診断、着床前診断など難病や障害が予想される子供に対し、生まれる前から命の選別が行われようとしています。障害のある子供を育てた親としては大変複雑な気持ちです。きれいなことでは済まされないとはいえますが、芳博のお陰で多くのことを学び、体験し、多くの人と知り合い、喜びや悲しみを分かち合うことが出来る仲間を全国に持つことが出来ました。病気や障害は何時わが身のことになるかも知れません。これからは、病

気や障害のある人に対し、芳博を通して学んだことを少しでも還元できればと思っています。

芳博に感謝、そして皆様に感謝いたします。



「第1回読売療育敢闘賞」受賞

第十六回重症心身障害療育学会は、今までの重症児施設療育研究大会が、発展的に療育学会になった記念すべき第1回の年です。

この記念すべき第一回の年に、読売光と愛の事業団より第一回読売療育敢闘賞を、ひまわり病棟の看護研究のメンバーが受賞しました。

受賞となった研究内容は、気管切開を施行した利用者さんが、安全安楽にゆったりと入浴できるように考えた入浴用防具です。

東二病棟看護師の、堀越徳浩さん、山村智子さん（現在東一勤務）、山口桜さんの三名を中心に、東二病棟の看護師、療育員全員の協力の下に、様々な試みの結果完成した防具です。

特に看護師の堀越さんは、十六年、十七年と二年にわたり研究発表を行い、昨年は気管切開をしてカニューレは入っていない利用者さんのための防具を考え、今年のカニューレの入っている利用者さんの防具を研究した結果の受賞でした。

どこの施設も利用者さんの重症化で関心も高く、昨年も問い合わせが相次ぎ、作り方などの手引きを二十ヶ所程に送りました。

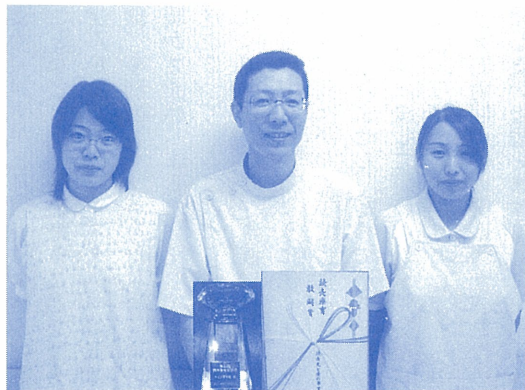
今回の受賞については、平成十七年十二月六日の読売新聞朝刊に掲載されました。

たので、詳しい内容は省略しますが、病棟の身近にあるものを使って作製されたものです。

この賞は、すぐれた研究についてくださった賞ですが、更なる課題として施設のみならず、施設外でも多くの人が利用できるように研究を続けてほしいという言葉が添えられました。

まずは、東二病棟だけでなく、他の病棟の利用者さんへも広げ、更に改良を加えて多くの人たちが、安心して入浴できるように防具を完成させてほしいと、願い、応援していきたいと思えました。おめでとございました。

（看護部長 秋元美知子 記）

山口さん
(東二病棟)堀越さん
(東二病棟)山村さん
(東一病棟)

体験ボランティアに参加して

須田 成子

昨年ボランティアをさせていただき、重い障害のある方々の日常生活を、体験を通して知ることができました。今年も楽しく貴重な三日間を過ごすことができました。

今回はひまわり病棟でした。昨年のコスモス病棟に比べて、利用者の平均年齢は低いようですが、障害の状態は重い方が多いようでした。食事介助やおむつ交換を通して、一人一人障害の違いに十分配慮しながら対応すること。グループ別の活動では、ミキサーのスイッチに触れて出る音や振動で笑顔や一瞬目がパツチリしてびっくりしたような表情をみました。外気に触れる、他のフロアの空間を感じるなどの働きかけを、感覚を育て、安らぎを感じられるようにしていくことが大切だと教えられました。日常の活動は職員だけでなく、利用者と一緒に行動が、より豊かな生活につながると思いました。

「重症心身障害児」といわれる最も弱い方々を守ることができると社会が、高齢者や子どもなど誰にとっても安心して暮らせる社会であると思います。こうした社会の実現に向けて、行政サイドに身を置く私自身も努力したいと思います。

二〇〇五年十月四日から三日間、東邦大学医学部学生一年四名（男子二名・女子二名）が村山の二施設で研修を行った。

全人的医療教育—実習を終えて—

東邦大学医学部学生 多田欣司

普通に暮らすことは決して普通なことではありません。一日三回食事すること、学校に行つて勉強すること、運動すること、家族や友人とコミュニケーションすること、自分で風呂に入りトイレに行くといった動作は脳の高度な情報処理、複数の運動神経単位の協調により円滑に行われています。普段なげなく暮らしている、これらの複雑な情報処理のアウトプットによって日常生活が営まれているという事実を時として見落としてしまいうらくなります。

東京武蔵村山市にある東京小児療育病院とみどり愛育園の二施設は東邦大学卒業生の社会福祉法人鶴風会により設立、運営されています。今回私が実習したみどり愛育園は、重い遺伝病や脳性麻痺、外傷などにより、重度の知的障害、及び身体障害者の患者が生活の拠点とする療育施設です。この施設の患者、患児達は、先に挙げたような動作を円滑に行うことができません。食事や排泄も介助を必要とします。また、コミュニケーションをとることも決して楽なことではありません。そのため、患者の日常生活は多くの制約を受けています。さらに、みどり愛育園

の患者の平均年齢は三十八歳、介護をされる御家族は六十歳〜八十歳、確実に高齢化が進んでおり、患者へのこれからの継続的、安定的な介護支援には個人と社会、政治レベルの協力が、今後より一層必要になります。これまで私はこのような状況に対してあまり関心を持っていませんでしたが、今回の実習で決して他人事ではないと強く感じました。多くの遺伝病や交通性外傷、感染症による発熱による脳性麻痺の発症の頻度は確率の大きさに違いはあるものの、誰にも起こりうる問題であり、もしかしたら彼らの代わりに自分がその場にいた可能性も十分にありえるからです。

これまで私たちの社会は障害をもつ患者をできるだけ隠し、まるでそのような障害をもつた患者が存在しないような態度を取り続けてきました。しかし、この療育施設は患者を社会から切り離すための隔離施設ではなく、患者が社会との接点をもつことができるように最大限の援助をする施設なのだ。今回の実習を通じて知りました。そしてこのよう着実な歩みがきつと社会を静かに変える力となると信じている患者の家族、医療スタッフによってこの施設は支えられています。この職場においてチーム医療は目標ではなく患者のために必要不可欠なものとして実施されています。この施設のスタッフはハードな職務を自然にこなしている。その根底には他者に対する思いやり、悲しみ、悲しみをシェアする心があり

ます。わずか三日間では全体を把握することなどとうてい出来ることではありませんが、この施設のスタッフは調理や掃除、事務のスタッフをはじめ、皆の心に暖かさを感じました。そして、常に心に壁を作っている私達にくらべ、患者の心には純粋さがあり、素直に自分の気持ちを表現できているように思えました。それは、我々がなくしてしまつたものなのかもしれません。初めて患者と会つてどのように接していいのか全く分からない状態から、患者として少しでも心が通じ合えた瞬間の心の暖かさを忘れないようにしたいと思います。

最後にハンディキャップをもつこと自体は不幸なことではないと思います。本当の不幸は社会がハンディキャップをもつ人々を自分達と異なる存在として隔離しようとするところから始まります。今後、医師として臨床能力、コミュニケーション能力、精神的タフさを身につけて、患者のQOLを少しでも高いものにする、ことのできるようなチーム医療を作つていける医師になりたいと思います。



藤沢周平の世界に

現代が呼応する

言語聴覚科 高泉嘉昭

芦花公園の世田谷文学館で催されている「藤沢周平の世界展」に出かけた。早めについたせいか、当初、入館者はまばらであったが、気づいてみると直筆などが展示してある飾り棚の前には大勢の人の列が出来ていた。なぜ今藤沢ブームなのだろう。

だいぶ前であるが、私が初めてであった藤沢作品は、本の好きな家内が、何気なく台所のテーブルに置いた文庫本「蟬しぐれ」であった。そこでは織田信長や家康のような時の支配者が主人公ではなく、貧しい下級藩士が主人公である。他の作品でも市井の人々が生き生きと描かれている。登場人物の目線や考え方がわれわれ庶民と等身大である。そこが「生活表現型作者」といわれ多くの人に指示される所以であろう。

時代小説には立ち回りがつきものだが藤沢作品に出てくる剣の使い手は、魔界から降り立ったような眠り狂四郎のようでもなければ、三船敏郎演じる用心棒や椿三十郎のような素性のしれないめっぼう腕の立つ流れ者ではない。秘剣『村雨』を伝授されたのは城下の空純流、石栗道場で無心に毎日剣の道に励む、実直で勤勉な下級藩士、牧文四郎である。現代の自分の道を真摯に模索するワカモノと重なる。その文四郎が自分に放たれた

名うての剣客をもの見事に打ち負かす場面は読んでいても、映画「たそがれ清兵衛」の立会いのシーンに勝るとも劣らぬ迫力がある。

ところで子どもにとっての幸せとはなんだろう。私の父は公務員で仙台の職場まで朝一番の汽車で通勤していた。雪の日も足跡が一つもついていない早朝から出かける。母は誰よりも早く起き、父のために朝食を準備し見送る。私たち兄弟は暖房設備はないが朝餉の香りと寒い中にもほんのりとした部屋の暖かさを目を覚ます。父はほとんど定期的な汽車に乗って却ってくるので帰宅時間もまぎまぎしている。長屋住まいの私たちにとって近所のテレビや子供用自転車のある家庭、大屋さんの瀟洒な家と生活、確かに羨ましいこともあったが、尊敬できる父と母がいつもそばにいて食事や会話が出るのは今思えば幸せなことであったと思う。

ところが文四郎の場合はどうであったろう。養子とはいえ敬愛する普請組の父、助左衛門はお家騒動に巻き込まれ切腹を命ぜられる。残り少ないわずかな時間に見接を許される父親の身の潔白を信じるが、その遺骸は無残にも戸板に乗せられ



荒蕪でおおわれたものであった。さぞかし文四郎も母も無念であったろう。後に生涯許されぬ思いを寄せ合う幼馴染の於福と、炎天かの蟬しぐれの中、助左衛門をのせた荷車を引いて家路に向かうくだりは思わず涙腺がゆるんでくる。

この文四郎を支えたのは友人たちだ。彼らもどこか我々の身近な友人たちを思い出させる。喧嘩の挑戦を受ければ腕の立つ文四郎のようなやつに助つるをたのめばよかった。喧嘩は強くないが知恵がまわり、学者を指す島崎与之介のような友人がそばにいと自分まで勉強家のような気分になったものだ。おかげで勉強の刺激はよく受け成績も上がった。勉強はそこそこで、人が良く裕福な小和田逸平のような友人の家にはちやつかりおじやまし、自分の家ではめつたに食べられないお菓子やお昼をご馳走になったものだ。

さて、多くの男女は人生の中で、思慕と情愛の念を抱く人に出会う。幼馴染のお福は、あるとき藩主の目に留まり子を宿し、いつの間にか違う世界の人となっていた。くすぶっていたお家騒動はお福ともども子どもの命まで及ぶ展開となり、文四郎までもが剣が立つが故に渦中

の人となっていく。「お福様」とその「お子」として二人を守べき主従関係が追っ手を追い払っているうちに、いつしか二人の思いを確かめ合っていくようになる。子どもを抱く文四郎とびつたり寄り添い、手にするお福の二人の姿をNHK「蟬しぐれ」で水野真紀と内野聖陽は感情たっぷりに演じて見せた。背景に流れる義太夫の調べとあいまってまるで浄瑠璃の道行きを思わせるシーンであった。

話しを世田谷文学館に戻そう。藤沢作品でしばしば舞台となる架空の藩名「海坂藩」は、藤沢が東京で所属した同人誌「海坂」に由来することを知った。結核療養のため山形からでてくるのであるが作品に山形の風物を思い出し郷愁を感じるの、陸羽東線一本で山形県と結ぶ古川出身の私だけではないだろう。

出口に進むと藤沢周平直筆の座右の銘の色紙が展示してある。そこには「瓢風は終朝せず、驟雨も終日ならず」と書いてあった。老子のことばで激しい風は半日もすれば止み、強い夕立も一日中は続かない、すなわち自然のエネルギーは人知の力の及ばない法則に従って起きているというのである。老子は人の道も同じで、自分の手柄を自慢したり能力を見せびらかすことは不自然な行為で長続きしないものだと言った。

藤沢作品は現代の我々に謙虚、素朴、慈愛など人の道として忘れかけていることを思い出させようとしているような気がする。

チャリティバザーに思う

父母の会長 一面田眞知

十月三十日晴れ、午前十時に毎年恒例のチャリティバザーが始まった。たちまち院庭は人並で埋まり、人々の掛け声で賑々しい市場が出現した。いつもの光景である。実はこの光景に至るまでが、主催者側にとって大変なのである。これまでの約一ヶ月半以上に及ぶ準備期間においては、鶴風会関係者、病院関係者及び父母の会員などの献身的な準備作業が必要であり、それに思いをはせると、頭が下がる思いがする。バザー告知・協力を要請手配・寄付要請・値付け・商品の梱包移動・テント設置、ヘルパー確保等々、これらは当然必要なこととは言え、大変な作業であり多くの人々の協力なしにはなし得ない。

午後二時、午前中からの混雑は解消され、あちこちの売り場で割り引き合戦が始まった。これを待っていたかのように大きな買物袋を持った買物客があちこちに目立つようになり、売っていた商品を残さないようにしたい売り手側と一円でも安く買いたい客との価格駆け引きは、やっつけても見ていても愉快である。幸い毎年のことで経験を積んだせいか売り手側の売り方などは随分上手くなっているように思う。

午後三時バザー終了、後片付けが始まった。テントの収納、残り商品の収納等これがまた力仕事、人手のいる作業であ

る。最後に打上げ会があり、その席上、今回のバザー売上金が速報ベースで金五二〇万円（寄付金を含む）と発表され、全員拍手でその成果をたたえあつた。

この貴重な収入の使途は、趣意書のとおり本病院等の施設建て替え時の借入金返済の一助に充当されることである。障害児（者）をもつ父母の会員として走る当病院に対して「頼れる病院」として今後大いに期待するところである。

また父母の会にとってもバザーは最大の恒例のイベントであり、会員の皆さんのバザーへの意識、協力姿勢は非常に高いもので、今後ともこの状態を維持してゆく必要があると痛感する。

バザーにご協力頂きました皆様、本当に有難うございました。



バザー風景

チャリティバザー

御寄付者・御寄贈者

個人

五十音順

青野志津江、青淵 幸恵・浅見 薫子
 安保 留男・五十嵐千恵・池 弘子
 石井 義夫・石川 和枝・石田みどり
 石野 好子・石丸 文子・石丸 正平
 板橋 保・市川 雅俊・市川 裕子
 伊東 明美・伊藤 治男・伊藤 裕之
 稲毛 孝夫・井上 友洋・今井 久吉
 岩淵 務・宇佐美寿一・白井 潔子
 内野 厚子・梅緯五十鈴・榎本 一三
 榎本 茂夫・榎本みつ枝・榎本 義子
 海老原明次・遠藤 京子・及川 貞
 大家 清子・大川由美子・大串 保雄
 大島 節子・太田 百代・大宅 正一
 大谷 達之・大館 清・大塚 いく
 大塚 淳子・大貫 茂雄・大貫 淳
 大野 聰・大場 吉延・岡松 眞二
 小笠原三恵・小川 昭子・小川 慶子
 奥田 輝雄・奥田 利晴・小野重里奈
 小野澤美枝子・小野寺昭子・尾山多恵子
 笠原喜久江・勝田 祥子・桂川 修一
 加藤 茂・加藤奈津子・加藤 裕
 神尾 拓郎・上岡 謙夫・神谷 節子
 神山英太郎・亀井 文子・鴨池 明美
 狩野耕一郎・狩野 三郎・河合 典子
 川口 照代・川田 哲靖・河野 歌穂
 神田 明・菅 伸二・菊地 智子

菊地 春男・北澤 園枝・北嶋 宣子
 北村 忠治・絹笠 誠也・木下 公男
 木村いく子・木村 三郎・木村 拓郎
 栗原 寿枝・栗又 照栄・桑原 章吾
 小泉 智也・児島 晃・小嶋 伸江
 小嶋 肇・小手川久代・小林トミ子
 小林 友美・小林 美鈴・後藤かつ江
 後藤 清美・斎藤加代子・齋藤 茂秋
 斎藤 重子・斎藤 眞・斎藤 光子
 坂井とし子・佐藤 健司・佐藤 小澄
 佐藤 宣・佐藤美代子・佐藤 芳子
 澤田千代子・茂野 幸子・篠 昌治
 渋谷 由紀・島田 敏雄・清水 純男
 清水美都江・下河辺祐子・白井多賀子
 白石 倭雄・杉山 早苗・鈴木 英司
 鈴木 真紀・鈴木 正敬・角之倉ミヨシ
 清宮 祥子・関口 明・関 基嗣
 関原 生子・曾山 紀子・そぶ川耕作
 高木 一行・高倉 高橋健次郎
 高橋 利春・高橋とよ子・高橋百合子
 高丸 洋子・田賀真知子・竹中玖美子
 竹中 廣夫・竹鼻 恵子・田項家幸子
 田代 勝三・田島 実・立川 裕子
 田中 栄子・田中 利一・田中 希実
 田中隆一郎・谷川 陸・谷藤 力童
 田村 和子・田村 小織・塚崎 佳子
 柘野 英樹・寺内 市郎・寺本 純子
 中里 茂・中里 宗樹・中里龍太郎
 中谷 祥宏・中平 貴子・中村 明美
 中村えり子・中村 恒子・中村 円平
 中村美津子・長崎 晶子・長嶋 啓子
 長田 栄子・長田 文寿・長田 実
 西崎 明美・西田寿喜代・西原 相希

西堀 清六・二島 里子・二村俊一郎
 根岸 靖子・野口 久子・野口美登里
 野口 美波・野沢 良美・延 明子
 野見山捷昭・野村 武弘・秦 敦子
 波多野利昭・浜野 雅壮・早川 芳江
 早瀬川 昌・原 迪子・原島 英雄
 原田 恭子・春山 清子・久松 慶
 平岩扶美子・平沢 文子・比留間富子
 比留間信行・福田 静子・藤井奈保子
 古川 竜男・堀内 明子・前谷 容
 前畑 安宏・曲尾 民子・増田 英男
 松尾 賢二・松島 英乃・松本 節子
 松本 誓子・松山 典子・真鍋 祥子
 三浦 栄一・三浦百合子・水野 静男
 宮崎 敏子・宮崎 芳子・宮本 みち
 村川 勉・村田 幹子・村中 達夫
 面田 真和・本明 寛・森 昭七
 森 美由紀・森田 桂子・守田 正三
 守田 洋・森田 英雄・諸
 柳 成子・山崎 道子・山岸 梅子
 八木 成子・山口 文江・山崎あけみ
 山崎 恵子・山崎 房子・山下 展男
 山田 金造・山田 耕次・山田 稔子
 山中あき子・山村 吉司・山本 公司
 山本みどり・吉川 重子・吉川 芳登
 吉田 和夫・吉田 桃子・若江恵利子
 渡辺 一・渡辺 松蔵・渡辺 實子
 渡辺 保枝



企業・団体

有限会社 新井クリーニング紹介
 アンデス 株式会社
 飯島食品 株式会社
 石塚ガラス 株式会社
 一富士ケータリング 株式会社
 株式会社 一富士
 株式会社 エクセル・サービス
 NPO 法人ウエル
 大崎衛生材料 株式会社
 奥森電気管理事務所
 オムロン労働組合
 柏木 株式会社
 国立厨房サービス
 財団法人 献血供給事業団
 株式会社 幸和義肢研究所
 和光堂 株式会社
 国際ソロプチミスト 東京一葵
 国際ソロプチミスト武蔵村山
 株式会社 サスプランニング
 三協製薬工業 株式会社
 三陽建物管理 株式会社
 サンヨー食品販売 株式会社
 株式会社 資生堂
 有限会社 清水商店
 シルバームッキ工業 株式会社
 真如苑
 第一屋製パン 株式会社
 大洋紙業 株式会社
 武田食品工業 株式会社
 有限会社 タケナカ
 武村青果店
 立川酸素 株式会社
 株式会社 タケケミ
 多摩中央信用金庫村山支店
 有限会社 地球堂
 株式会社 ツムラ
 東京医療クリン事業協同組合
 東京コカ・コーラボトリング 株式会社
 東京昭和運輸 株式会社
 株式会社 東京洗染機械製作所
 東邦大学医学部看護学科
 東邦大学医療センター 大橋病院
 東邦大学医療センター病院
 東和防災工業 株式会社
 有限会社 トラストデンタル
 ナガイの白衣
 中里内科小児科医院
 株式会社 日栄東海
 日清製糖 株式会社
 日本ステリ 株式会社
 ビンスタークスノー 株式会社
 土方歯科医院
 フォスター運輸 株式会社
 不二薬品 株式会社
 富士リネンサプライ 株式会社
 武陽交通有限公司
 株式会社 フレーベル館
 ヘルシーフード 株式会社
 べんてる 株式会社
 毎日新聞下北沢販売所
 舞民族舞踊文化財団
 ミット商事 株式会社
 南観光 株式会社
 宮本眼科クリニック

武蔵村山市肢体不自由児者父母の会
 むさしの住宅自治会
 森永乳業 株式会社
 有限会社 森永牛乳小平販売所
 株式会社 ヤナセ石油販売
 株式会社 ヤマダ
 株式会社 菱食
 株式会社 リンレイ



野菜も売ってます

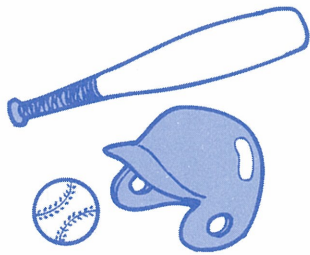
処理の不備のため、万一記名洩れがありましたら、お詫び申し上げます。
 また、お手数ですが、是非ご一報下さい。
 ご協力下さいました皆様に
 感謝いたします。

連絡先 ☎ 042・561・2521

バザー委員会

～ 試合結果 ～

- 優勝 島田療育センター
- 準優勝 秋津療育園
- 3位 整育園
- 4位 鶴風会
- 5位 東大和療育センター



この大会に参加するために、様々な方面からご支援をいただきありがとうございます。今年は勝利の女神に会えませんでした。今年も、全員筋肉痛以外の怪我もなく無事に日程を終えることが出来ました。

『野球大会に参加して』
秋の空は男心？そのお蔭で十月三十一日（月）東京都内の重症心身障害児（者）施設職員交流野球大会に職場の代表として十七名が参加できました。



一都立清瀬グラウンドにて（試合後）

新 入 職 員 紹 介

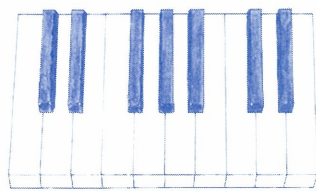
東京小児療育病院・みどり愛育園

氏名	入職年月日	所 属
久我 洋子	H17/07/01	西1病棟・療育員
渡邊 智美	H17/07/01	東2病棟・療育員
藤本 恵美子	H17/07/01	通園・看護師
石田 教倫	H17/08/01	東1・療育員
山瀬 美香	H17/08/01	訪問看護たんぽぽ・看護師
光成 綾子	H17/09/01	西2病棟・療育員
細谷 哲	H17/09/01	通園・療育園
栗原 紀子	H17/09/01	通園・療育員
居波 都	H17/09/01	在宅支援室・サービス提供責任者
榎本 美智子	H17/09/01	西2病棟・看護師
高橋 久美	H17/09/01	児童デイサービス
青木 靖子	H17/09/05	東1病棟・看護師
高橋 素子	H17/09/21	西1病棟・用務
福田 真弓	H17/10/01	通園・療育員
外岡 三枝	H17/10/24	歯科衛生士
中島 裕子	H17/11/01	言語聴覚科・言語聴覚士
遠藤 ひろ子	H17/11/01	訪問看護たんぽぽ・看護師
仲丸 千加子	H17/11/01	訪問看護たんぽぽ・看護師
鴨下 知実	H17/11/04	託児室・保育士
吉田 佳代	H17/12/01	東2病棟・看護師
白田 旭	H17/12/01	西1病棟・看護師
三橋 美智子	H17/12/01	西1病棟・療育員
日暮 輝美	H17/12/05	医事課・医事

西多摩療育支援センター

氏名	入職年月日	所 属
清水 潤児	H17/07/01	療護・療育員
金澤 竜二	H17/07/01	病棟・療育員
藪 美里	H17/07/01	療護・療育員
内山 祥子	H17/07/04	療護・療育員
山崎 晴彦	H17/07/01	療護・療育員
山之内 美香	H17/08/01	療護・療育員
内藤 奈巳	H17/08/01	診療所・療育員
土屋 祥子	H17/08/01	療護・療育員
内村 里美	H17/08/15	事務・書記
並木 佐依子	H17/09/15	診療所・看護師
古別府 美和子	H17/10/01	診療所・看護師
加藤 佳代子	H17/10/11	療護・療育員
高橋 初美	H17/10/19	診療所・看護師
立河 央子	H17/11/01	療護・栄養士
小林 泰子	H17/12/01	療護・療育員

これから頑張ります。よろしくお願ひします!!



楽器「寄贈の願ひ

もし、御使用にならない楽器をご所有の方がいらつしやいましたら、本施設の子供達にお譲りいただきたく、左記にご報下さいますようお願いいたします。

連絡先

〇四二（五六二）二五二二

庶務課 岩田・佐藤



社会福祉法人 鶴風会 後援会 だより

阿曾滋子先生をお偲びして

評議員 小川昭子

平成十七年八月十六日、阿曾滋子先生が逝去されました。

先生は、東邦大学（帝国女子医専）を昭和二十四年卒業後、愛育会病院で小児科を専攻されましたが、その後、育児その他の事情で精神科にお移りになられ、昨年迄、精神科医として、又病院長であられた夫君の妻として、母として、立派な人生を過ごされました。昭和五十五年から平成十六年六月迄、社会福祉法人鶴風会の評議員として御協力下さいました。評議員会ではよく同席させて頂き、いつも楽しい話題の尽きない方でした。にこやかに、丁寧な言葉をくずされないと話しながら特に印象深く、早い御逝去が惜しまれます。

立派な先輩を失い、しみじみと時代の流れを感じ、心より御冥福をお祈り申し上げます。

新年を迎えて

理事 二宮文乃

平成十八年丙戌の年を迎え、鶴風会東京小児療育病院、みどり愛育園・西多摩療育支援センター関連の皆様と良い年

であり、健やかな生活で過ごされますことを祈念致します。

昨年は日本の世相は大変悪くなり、物が豊かになっても多くの悲惨な事件が発生し人々の心を暗くしました。安全でどこかに暮らしていた頃の日本人気質はどこへ行ってしまったのかと思います。

「衣食足りて礼節を知る」と昔から言われていますが、物が充分になりすぎて礼節は失われました。他者に対する優しさや思いやりを本来の心として持っている日本人、自然との共生を底流にもつ東洋型の思想を思い起こして、それを持ち続けるよう努力すればこの荒んだ世の中も渡り、よりよい方向に行くのではないかと考えます。

自然が破壊され、きれいな空気と水がもつとも必要な成長期の子供達や身体的弱者への影響が心配される地球的環境です。

施設に於ける入所者、通園者の皆さんは多くの支援者の方々に支えられ、日々回復されるよう励んでおられますが、看護する方、される方の真剣な姿に私達は勇気づけられ、また頑張ろうという気持ちになります。

障害をもつ人達の社会生活へのノーマライゼーションを望むのであれば、これ以上地球環境が悪くならないよう祈り、

清澄な水を清浄な空気を保てるよう努力しなくてはなりません。同じ志をもつ日本人が多くなって欲しい、日本国も同調して欲しい、それが健康を保つ病気を治す基本だと思います。

物の豊かさより心の豊かさへ転換する時期です。自然の偉大さを実感し、謙虚に自然と共生すること、すなわち心身一如の考え方から両方のバランスを保って健全に生きることを心がけましょう。健康者と障害者も豊かに楽しく過ごせると思います。

東京小児療育病院

みどり愛育園を訪れて

日本女医会千葉支部 山本みどり

日本女医会千葉支部有志（東京女子医大・関西医大・千葉大・東邦医大）は十一月二十七日晩秋の頃、五島瑳智子先生の御案内で武蔵村山市の東京小児療育病院を見学させて頂く為、市川を出発しました。前もって五島先生より『はぐくむ』『開院四十周年記念誌』をお送り頂き、有る程度の知識は持ったつもりで出掛けました。都内を順調に抜け武蔵野にさしかかり、街路樹の紅葉に感嘆の声を発しながら間もなく病院に到着致しました。

院内のお部屋には長岡常雄総施設長始め、秋元看護部長等、日曜日にもかかわらずにお待ちくださり詳しくご説明を頂き、それぞれメモをとらせていただきました。その後、院内を秋元看護部長に御案内頂きました。日曜日だからと申す訳ではないのですが、とても静かに感じ

られて、またベッドはよるの睡眠の為であって日中は広い部屋で皆一緒に過ごすとの事、これから子供達も寂しくないし看護師さんの眼もよく行き届き、よい方法だと感心しました。子供さん達ものびのびしている様に思われました。大きい子供さんは車椅子で、それ一人一人身長病状に合わせ、また酸素吸入の器械も積めるように特注との事でした。可愛い花模様や人形の模様の楽しい車椅子でした。

痰が出やすいように腹這いのままでいた子供さん、今思い出しても涙が出てきそうです。更に吃驚致しましたのは、大部分の子供さんが経管栄養との事その消毒室も見せて頂きました。開所以来の方もいらつしやって、最高五十八歳との事。それ故、婦人科成人病の医者も必要になってきた由で東京小児療育病院の歴史の長さを感じました。

それにつけても先輩の諸先生方、現在五島先生を始めとして、子供さん、父兄の方々の為に毎日を過してこられた職員の皆様には改めて尊敬の念で一杯です。

今までコロニスの会やらオルフェの会には家族と共に楽しみも兼ねて出席させて頂いていましたが、今回はご出席人数が気になってしまいました。市川では「母と子の手をつなぐ会」に医師会も協力する事に入れていきます。併しまだまだ甘いと感じました。人事ではないんです。私自身も全く無知に近かったです。気がつく事をさせて下さり、有難う御座いました。

鶴風会後援会へご寄付者ご芳名
平成十七年七月〜平成十七年十二月
延二九八名(五十音順・敬称略)

相沢 洪志・相沢 公子・相見 豊子
青木りう子・秋葉 則子・浅川 恭行
浅見 薫子・朝山 裕・足高 毅
阿曾須己子・足立 嘉子・阿部 久代
新井 京子・荒木美枝子
飯国紀一郎・飯国 弥生・五十嵐いづ子
池田喜久子・石川 至・石北 寿子
石田 哲朗・市来フジエ・五木 玲子
伊藤 圭子・伊藤 元博・井上 照子
井上 瑞穂・井上 康子・井上 裕子
井上 礼子・猪俣賢一郎・今井まつ江
今崎 正生・今田 峰子・岩崎 直弥
上野 洋子・鶴養 澄子・内野 啓子
梅原 公江
江川 巖・江口 環禧・荏原 光夫
荏原 寿枝
及川 貞・大実 誠行・大関 忍
大橋 和男・大脇 照枝・岡田さと子
猪方 月・小川 浩・小川 富美
奥村 研三・小澤 一男・小田切まさ子
小野 丞二・小原 明・小原 桂子
小原 該一
葛西まゆみ・鹿島田忠史・柘原 宏久
勝田三枝子・勝目 幹郎・桂島 敦子
加藤まこと・加藤 光子・加藤祐之助
加藤 葉子・門屋 敦子・金森 勝子
金子 晴生・金田 律子・金親 正敏
鎌田 昭次・鎌田 直子・釜范 登志
唐澤 重徳・河合 典子・川野 報子
木内 徹子・菊池 信彦・岸 芳正
岸本 篤郎・北野千賀子
楠 后代・久保 初美・熊谷 良子
黒田 員栄・黒田 光保・桑原 耕三
月花 亮
呉 政子・小出 誠・神津 康雄
幸田 文一・小柴 弘己・小柴 裕子
小林純二郎・小林 義郎・小林 信子
今野 信子

西條 公勝・斎藤 長則・斎藤 則喜
斎藤 英子・先山 隆司・桜井 様子
笹井 麻子・佐々木胤郎・佐多 由紀
佐藤 香・佐藤 重雄・佐藤 忍
佐藤 中・佐藤 真理・佐藤 芳子
鮫島 寛次・鮫島 桃子
椎名レディースクリニック
繁田裕美子・志鳥眞理子・四宮 雅子
柴 昌徳・渋谷 朝子・渋谷 昌良
島 初・島田 敏雄・島田 長人
嶋田 寛子・上司 フジ
杉本 寛子・杉山 卓哉・杉山 尚子
須田百合子・鈴木 和子・鈴木 秀明
隅 初音・炭山 嘉伸
高垣 益子・高桑 幹雄・高槻 義夫
多賀 敦子・滝川 純・武居 正郎
竹沢 修一・武田みつ子・多田 久人
田中 明美・田中 園子・棚瀬 延
棚橋 雄平・谷 絹子・田沼 博
田原 久子・田部 秀山・田宮 親
塚越 実・月本 一郎・月本 伸子
辻本公美子・堤 俊一郎・坪井 康次
壺阪比路里・鶴岡 康子
東邦会秋田県支部
富澤千代子・豊島 久子・豊田 道子
直井喜美子・中川 隆子・中里 純子
中里 良・中島 桂子・中谷 尚登
中野 茂・中野 敏江・長野 文子
中野 貴子・中村 一男・中村きよ枝
仲村 健一・中村志津子・中村 豊
中山 茂樹・中山 寿子・中山眞理子
並木 温・成毛 典子・成味久美子
西井 華子・西澤 憲司・西田 隆寛
西平 守夫・西宮 常代・丹羽 修
野口 道子・野村 直子・野村 正征
萩原 マチ・橋口 玲子・橋詰 直孝
畑 靖子・花岡 正智・花岡嘉奈子
浜野 美枝・林 栄子・林 京子
早川 浩市・早原 千鶴・原 まどか
原山千鶴子・原田 則雄・原田裕美子
原山 国秀
檜垣 有徳・樋口 正俊・土方 淳
日根野妙子・平井 寛則・平岩扶美子

平沢 幸子・平嶋 信子・平田 徹
府川 則子・福田 孝子・藤井奈保子
藤田よし江・藤田ルリ子
星 恵子・発地瑠璃子・堀内千鶴子
堀川 一博・本間れい子
前田 澄子・馬嶋 順子・町田登志江
松尾多希子・松岡 昌子・松島 正浩
松原 龍弘・松原 美保・松本 知子
松本 道・丸山 和子
三浦 眞一・水野 惇子・水野 孝子
三登 和代・水吉 秀男・水吉 陽子
宮川美智子・宮家 三・宮崎 和
宮田 誠子・宮本 みち
向山 秀樹・向山 和代・村井 昌允
村川世津子
森 克彦・森 千恵子・森 勉
森 紘子・盛川 洋一・盛川 温子
森木 光司・守下 里子・諸岡 チカ
安土 達夫・柳澤 信子・矢野 悦
矢野 春雄・山木 茂子・山口 之利
山崎 郁・山崎 公子・山崎 毅樹
山住美津子・山田三枝子・山出 孝子
山中 さだ・山村 憲・山本みどり
湯川 玲子
横田 照衛・横手 方子・横山 隆子
吉田 友美・吉田 宏重・吉田 正己
芳野 由以・吉見 梓
渡辺 和子・渡辺古都江・和田 俊洋

社会福祉法人鶴風会へご寄付者
ご芳名(法人・団体・個人)
平成十七年七月〜平成十七年十二月
六七名(五十音順・敬称略)

父母会後援会
武蔵村山市空手道連盟
(株)エクセルサービス
板垣 紀夫・伊藤 あつ・伊藤九一郎
岩崎 雄一・家族・上野 薫・鶴川美登里
白井 潔子・江本 峰雄・大塚 淳子
大西 一禎・小俣 晃・加藤 茂
上岡 正子・小池 時史・斉藤八重子
桜川 宣男・佐藤 東太・清水 光雄
鈴木 康之・清宮 祥子・瀬野 国男
苗村 則行・長岡 常雄・浜中知恵子
浜中 晴夫・檜原村社会福祉協議会
平井裕見子・前田 稔・松岡 真裕
松尾 賢二・三村光太郎・宮寿会
森田 恵子・森田 正三・森田 英雄
山谷 敏男・山田美智子・吉川 義登
吉永 勇男・吉野 孝・我妻 博之
榊田 明美
石田 勇・今井 敏樹・海老原明次
大貫 淳・菊地 由美・斉藤 雅彦
関根 雅弘・高橋 孝彦・竹中 幸宏
中里由理枝・橋詰 美佐・守田 洋
山下 順子
秋本 高弘・安倍 浩一・阿部美代子
飯田 潤一・幾田 祥正・石野 裕子
伊藤 雅子・猪狩 祥子・今井 敏樹
岩本 陽子・江田 周二・大串 保雄
大宅 晶子・大場 幸延・岡松 眞幸
長田 和久・小嶋 伸江・菊地 由美
小嶋 伸江・斎藤 雅彦・渋谷麻利子
鈴木 美帆・高橋 京子・高橋 孝彦
竹中 幸宏・寺内 政志・中里 賢
中里由里枝・西原 相希・萩原 眞治
馬場 文彦・面田佳奈穂・守田 洋
山下 順子・山田沙代子・山本果奈湖
渡辺 晃

東京小児療育病院
みどり愛育園へご寄付者ご芳名
平成十七年七月〜平成十七年十二月
三七名(五十音順・敬称略)

旧国立療養所村山病院有志一同
国際ソロプチミスト東京一葵
社会福祉法人泉会 身体障害者入所授産施設日の出会
社会福祉法人山の子会 山の子の家
社団法人日本女医会 東京都支部連合会
拓洋物産株式会社
立川酸素株式会社
通所もえぎ保護者会
東京小児療育病院・みどり愛育園 父母の会